

長崎 県内の高校生参加

医療現場を体験



看護コースで緊急搬送された患者の処置を学ぶ高校生
—長崎市、上戸町病院

長崎市中戸町4丁目の上戸町病院で「高校生1日病院体験」が22日から始まり、初日は医師、看護、リハビリの3つのコースに県内5校から14人が参加した。

医師コースの参加者は回診や介護施設への往診に同行し、患者とふれあったり、医師の指導を受けながら聴診器で胸の音を聞いたりした。看護コースでは患者役と看護師役に分かれて、患者が緊急搬送された後、ストレッチャーに乗せ血圧を測るなどの処置をし検査室などへ送るまでの流れを体験。リハビリコースでは作業療法士から口内マッサージなどの指導を受け

た。

医師コースに参加した県立長崎東2年の鍵本宇宏さん（17）は「足腰が弱くなった人や認知症が進んだ人、よくしゃべる人など患者さんもさまざま。一人一人にあったコミュニケーションを考える重要性を感じた。この経験を生かして、患者さんに寄り添える医師になりたいと思った」と語った。

医療現場を知ってもらい、進路の選択肢の一つにしてもらおうと同病院が春休みと夏休みの年2回開催。今回は31日までの計7日間で薬剤師を含めた4コースに計118人が参加予定。（白石彩乃）



高校生1日病院体験取材しました。

病院内を見て回り一番印象に残ったのが、職員の方と患者さんの心の距離の近さです。話をしている様子からそれが伝わり、学生たちも感銘を受けた様子。

体験終了後にこれらの目標を聞くとどの参加者も「患者さんに寄り添える人になりたい」と話していました。この経験を今後に生かして頑張りたいです。

（あやのん）

3/24 (木) 長崎新聞 13面